

日本復帰 50 年 戦争体験を紡ぐ

沖縄は日本復帰 50 年を迎えましたが、現在も続くロシアによるウクライナ侵攻、台湾有事など、平和とは程遠い現状に多くの方が不安を抱え、1 日も早い平和的解決を望んでいると思われま

す。本会は、沖縄県内の医師・歯科医師 800 名以上が在籍する医療団体として「いのちと健康を守る」活動を続けております。

今般、長崎原爆と東京大空襲を経験されたエッセイストのゆたかはじめ氏、沖縄戦語り部の玉木利枝子氏、元 NHK アナウンサーの牧港襄一氏の 3 氏に講演いただき、一人ひとりが改めて「戦争」に向き合い、「平和」について考える機会として講演会を企画しました。

是非、多くの方々のご参加をお待ちしております。

演題「長崎原爆と東京大空襲」

ゆたかはじめ氏（エッセイスト）

本名 石田穰一（いしだ じょういち）

1928 年東京生まれ 東大法学部卒業後、東京を中心に長く判事を務め、その間那覇地裁所長などを歴任した。1993 年東京高裁長官を定年退官、夫婦で沖縄に移住。沖縄キリスト教短大教授、沖縄県初代行政オンブズマンを務めた。主な著書に「広田弘毅の笑顔とともに」、「汽車ポッポ判事の鉄道と戦争」（弦書房）など。父石田寿（ひさし）も判事で、昭和 11 年、外交官出身の広田弘毅首相秘書官を務めた。長崎原爆当時の長崎地裁所長。14 歳少女の原爆体験記「雅子斃れず」（昭和 24 年長崎婦人タイムズ社初版）の著者、石田（柳川）雅子の父。この被爆記を学生当時まとめたのが兄ゆたかはじめである。



演題「地上戦を語る」

玉木利枝子氏（沖縄地上戦南部の体験者）

1934 年生まれ、那覇市育ち。1944 年 10 月 10 日当時 10 歳、那覇市で大空襲に遭う。開業医である父の病院も消失、上陸寸前父は軍医として強制召集される。父を捜し求め、南下する軍隊を追って南部の激戦の中に巻き込まれ、家族 8 名を失い孤児となる。戦後、放送社、OTS、国の外郭団体等を経て、終戦 50 周年目（1995 年）「沖縄平和祈念資料館」設立推進検討委員会委員を務める。小誌「少女十歳の戦場」を纏める。75 歳頃より学生向け（特に県外校）に対し体験講話活動を行う。



演題「親子三代で語り継ぐ沖縄戦」

牧港襄一氏（元 NHK アナウンサー）

1942 年牧港篤三の長男として那覇市に生まれる 1966 年東京経済大学経済学部卒業、東京の出版社築地書館に入社。1968 年 OHK(沖縄放送協会)にアナウンサーとして入社。1972 年復帰と共に NHK に移行 沖縄-宮崎-大津-金沢-松江-沖縄へと転勤。2002 年 NHK 定年退職現在に至る。父牧港篤三は沖縄戦で従軍記者 戦後 5 年後、沖縄戦の住民の記録を太田良博記者と共に「鉄の暴風」執筆 沖縄タイムスと朝日新聞から出版現在 10 版目



日時 1月15日（日）午後2時～4時

場所 沖縄県立博物館・美術館（おきみゆ一） 3階講堂
（那覇市おもろまち3丁目1-1／TEL098-941-8200）

会場定員 100名 ※要事前申込み

参加費 無料

主催：沖縄県保険医協会（TEL098-832-7813/FAX098-832-4482）

後援：沖縄タイムス社、琉球新報社、QAB 琉球朝日放送、NHK 沖縄放送局、沖縄テレビ放送、RBC 琉球放送
ラジオ沖縄、エフエム沖縄



* 駐車場（140台収容）が満車の場合、近隣の有料駐車場をご利用ください。

【新型コロナの感染拡大時の対応について】
新型コロナの感染拡大状況によっては、会場開催を止め完全オンライン開催への変更、または開催延期・中止になることもございますのでご了承ください。

Web 参加申込 okiho1989@gmail.com

1月13日（金）正午までに上記メールアドレスへ講演会名、氏名、連絡先を送信ください。後日、配信 URL をお送りします。

右のQRコードからもお申込みいただけます。

※不明な点は協会事務局（098-832-7813）までご連絡ください。



会場参加申込 FAX 番号 098-832-4482

所属 一般 協会会員 ※いずれかに○

代表者氏名

名

連絡先（TEL）